

# 大分市に

# 住む。



## 大分市に住みながら 東京の会社に勤める フルリモートワーカー

都内の大学への進学を機に  
上京し、卒業後も都内IT  
企業に勤めていた折に、コ  
ロナ禍に突入。「帰りたいた時に  
大分に帰れない、旅行にも行



### Watanabe's Profile

渡邊 愛さん (28)

大分県佐伯市出身。  
高校時代は大分市で過ごす。  
2021年4月に東京都から大分市に移住。  
高校の同級生である夫も和歌山県から  
Uターンし、大分市内に就職。

けない」という現実を直面し、  
地元へ帰ることを考えるよう  
になったという。

地元へ帰る際は地元企業  
等への再就職という形が一  
般的である。しかし、渡邊  
さんは、リモートワークな  
らどこでも仕事ができる  
と考え、フルリモートかつ地  
方創生に携われる仕事を探  
した。その結果、各地域に  
存在するコミュニティをオ  
ンライン上で運営する仕組  
みを提供する会社に就職し、  
イベントやセミナー、記事  
等のコンテンツ制作などを  
大分市に住みながら、すべ  
てリモートワークで行って  
いる。

## リモートワークの メリットとデメリット

リモートワークのメリット  
はなんといつでも通勤に費や  
す時間が無いということ。渡  
邊さんの会社の就業時間は10  
時から19時。自宅⇨職場なの  
で、朝は時間の余裕があり、  
始業前に買い物や、洗濯など  
の家事を済ませている。「東  
京では時間に追われて余裕が  
ありませんでしたが、大分  
では自分のペースで生活でき  
るようにになりました」と嬉し  
そうに話す。



渡邊さんがよく散歩する大分川河川敷

一方で、リモートワークな  
らではの悩みもある。大分  
で過ごしたのは高校生までとい  
うこともあり、社会人の知り  
合いが周囲に少ないというこ

とだ。

しかし、渡邊さんは地元  
に住む兄の紹介で異業種の方と  
交流できるイベントなどに積  
極的に参加し、新たな交友関  
係を広げていった。

働き方が柔軟になり、リ  
モートワークが普及している  
とはいえ、その生活を具体的に  
イメージできる人は少ない  
であろう。そんな中、渡邊さ  
んの生活スタイルは新時代の  
ロールモデルと言える。

## 大人になってわかる 大分市の魅力

東京で8年間過ごした後に  
大分市に移住した渡邊さん。  
最後に大分市の魅力と今後の  
展望を語ってくれた。

「いずれ出産することを考  
え、子育てや住みやすさの  
面で高く評価されている大分  
市は安心して移住できる街だ  
と思いました。こういう視点  
は高校生の時には無かったで  
すね。大人になって住んでみ  
て、分かることも沢山ありま  
す。これからは大分がもつと  
もつと元気な街になるように  
色んな取り組みに参加して行  
こうと思います。」

## 仕事探し・住まい探しを サポートします！

大分市内には、「大分での就職」を応援するおおい産業人財セン  
ターや、創業を支援する大分市産業活性化プラザがあり、仕事探しのサ  
ポート体制が整っています。また、住まいに関しては、「大分市住み替え  
情報バンク」で空き家情報を紹介するとともに、移住者が住宅を取得・賃  
借する場合には補助制度もあります(条件あり)。その他大分市の最新  
の移住情報は「大分市移住応援サイト」をご覧ください。

大分市役所 おおい魅力発信局  
〒870-8504 大分市荷揚町2番31号  
TEL 097-578-7749  
E-mail miryoku@city.oita.oita.jp



大分市移住応援サイト

## 暮らして実感 大分市はこんなまち /市の担当者から



大分駅府内中央口広場。  
地上80mの展望露天風呂もすぐ目の前。  
(写真左の建物)

## 移住を希望される方へ

県都大分市は人口約48万人。  
子育て・教育環境や医療体制  
も整っており、幅広い世代や  
様々なライフスタイルにも対応  
できます。また、大型商業施設  
や文化芸術施設も充実し、ま  
ちなかにある徒歩で行ける温泉も人気。暮らしやすい都市の環境と豊か  
な自然を併せ持つ“ちょうどイイ”まちです。

Advice & My Favorite

# 別府市に住む。



## 別府市に訪れた時の直感で移住を決める

「温泉」と「地獄」が別府のイメージだったという八木みちるさん。旅行で立ち寄ったのも「正直に言うと、湯布院や黒川温泉のついでだった」そうだが、初めて訪れた別府の魅力に引き込まれ、移住を決意するまでに。

「住んでいた栃木になかった海にすごく憧れがあった、



八木みちるさん (49)

栃木県に住んでいた2007年、旅行で初めて訪れた別府の魅力に引き込まれ、2013年に移住してカフェを営んでいる。

## 交流の場「コトリカフェ」を移動販売車でオープン

栃木県では、「お店をつくらせて、まちをつくらう」という

坂の上から一直線に別府湾まで伸びる九州横断道路からの眺めがたまらなく良かったです。まちも路地裏やアーケードの商店街など古いものと新しいものが混在する雑多な感じがとても良かったし、人の優しさも移住の決め手でした。海や人、街並みなどいろいろなものが重なって、直感的に「ここだっ！」と移住を決めたという。八木さんが感じた別府の魅力を取り、移住前に会社の仲間と一緒に旅行に来るほど別府に「はまった」そう。



ワークショップに参加しており、「別府に移住したら地域を活性化できるようなお店をしたい」と考えていました。それで、地域の人や観光客の交流の場になるようにと思つて」と、移動販売の「コトリカフェ」をオープンした。始めた頃は、出店場所を貸してもらったりお店に来てくれたりと、地元の人温かさに助けられた。「困っている人や頑張っている人を応援してくれる感じがありますね」と話す。

現在では、「さらに別府に根付いた生き方をしたい」と移動販売に加え店舗もオープンした。

## 別府八湯温泉道名人会副理事長として別府の魅力を伝えたい！

別府に住んで良かったと感じることは「温泉が入り放題(笑)。風邪をひかなくなった

し、肌の調子も良くなりました」と、地域の人で利用する共同温泉を楽しんでいる。

都会で働いている頃は、コンビニの店員さんと話すだけの日もあったそうだが、「共同温泉では、挨拶から始まり一言二言と会話のふれあいがあるのが良いですね。ただ、入り込み過ぎないように絶妙な距離感も保つてくれるところもあると思います」。

一人になりたい時は貸し切り湯に行くなど、気分に合わせて雰囲気や泉質の温泉を選べるのも別府の魅力だそう。現在では88箇所の温泉を巡つた別府八湯温泉道名人会の副理事長も務めている。

「別府の魅力を伝え、旅行に来てくれる人を増やしていきたいです。来れば、好きな人にはたまらない別府の魅力にはまると思っているので、移住する人も増えると思います」と地域活動にも頑張っている。



別府八湯温泉道名人会のメンバーと

## おためし移住施設で「べっぴ暮らし」を体験してみませんか？

別府市への移住を検討している方を対象に別府での移住生活を体感いただける、おためし移住施設をご用意しています。

施設には生活に必要な家電等・消耗品(衛生用品を除く)もあります。詳細はHPでご案内しておりますので、是非ご覧ください。



おためし移住施設

別府市役所 政策企画課  
〒874-8511 別府市上野口町1番15号  
TEL 0977-21-1122  
E-mail pco-pf@city.beppu.lg.jp

## 暮らして実感 別府市はこんなまち /八木さんから

### 休日の過ごし方は？

県外の友人を案内したり、湯めぐりや海の見えるカフェでゆっくり過ごしています。以前から名人会の活動で地域の共同温泉の運営にも携わっています。

Advice & My Favorite



## 市内にたくさん！共同浴場

名人会が運営に携わる「寿温泉」。1Fが共同浴場、2Fは地域の公民館となっており、このようなスタイルの共同浴場が市内にはいくつもあります。

# 臼杵市に

# 住む。



上村 弘一さん (43)

移住の決め手は  
食、子育て、  
大分市に近い

2016年に臼杵市に妻の貴子さん、  
2人のお子さんと移住し、素材や酵母にこだわった  
パンづくりで充実した日々を送っている。



臼杵でパン屋『UMURA  
BREAD』を経営する上村さ  
んご一家は、平成27年度移住  
希望者向けモニターツアーに参  
加後、翌年に名古屋から移  
住。素材や酵母にこだわったパ  
ン屋の経営を軸とした生活が  
できる場所として、臼杵を選

んだ決め手が「食、子育て、大分市に近い」こと。さらに、「臼杵市は有機農業を推進し、新鮮で安全な食材が身近にあること。また、小学校の給食は器からこだわり、市内の有機野菜を使っているなど、食育に対する意識も高いことに驚きました」と加える。大分市に近いことで経営や人の繋がりが日々広がっている。

パンや生活を通して  
人が繋がる暮らし



臼杵の人の印象は「まじめで誠実な人が多いイメージ。人間らしく生活できる環境があるため、生きていくことに力強い」と感じている。また、グリーンツーリズム団体に加盟して農泊の受け入れも始め、親子で国内外の方との交流を楽しんでいる。移住前に比べ、時間に追われずにマイペースに生活ができ、地域との付き合いがポジティブな成長へと繋がっているとのことで、今後は

ライフスタイルを確立していくことを目標に、充実した日々を送っている。



高松 賢さん (52)

きっかけは  
家との出会い、  
人の繋がりが

自然農に打ち込むため2016年に妻の美恵さん、  
2人のお子さんと岡山市から移住。  
現在は農泊の受け入れも行っている。

震災後、関東から岡山を経由して、臼杵市に移住した高松さんご一家。自然農に打ち込める場所を探していたところ、臼杵市の平成27年度移住希望者向けモニターツアーを見つけて参加。ツアーの合間、事前にインターネットで気にかけていた物件を見学したところ、すぐに気に入って、近くに住むグリーンツーリズム団体の農泊家庭の方が仲介役となって、とんとん拍子で移住に繋がった。

ちようど良い田舎生活

臼杵市のことはほとんど知らなかったこともあり、「大

分の穴場」というイメージ。移住後は「田畑や豊かな自然があり、子育てや農業をするにはちようど良い場所。色んな野菜が作れるように」と『そよふく農園』で自然農に打ち込み、充実した日々を送っている。子供達が通う小学校や地域の皆さんが自分達を受け入れてくれて、人の繋がりが温かさをとても感じているという。また、「グリーンツーリズムに関わる方々がとても生き生きとしているし、市役所の職員も身近で親切に接してくれる」と、すっかり地域に馴染んで人との関わり合いを楽しんでいる。そんな高松さんも現在はグリーンツーリズムの農泊家庭として、市内外の子供達や移住希望者を中心に受け入れを始めた。



暮らして実感  
臼杵市はこんなまち  
/市の担当者から

子育て環境は？

- 保育所(園)は待機児童ゼロ。
- 地元産の安全で新鮮な野菜を学校給食で提供する『給食畑の野菜』で子ども達の健全な育成を目指しています。



親子で遊ぶところは？

臼杵地域と野津地域に公園があります。休日には、市内外からファミリーが訪れて賑わっています。『リーフデわんぱく(臼杵市総合公園内)』の長〜いローラー滑り台はスリル満点ですので、お父さんお母さんも、ぜひお子さんと一緒に体験してください!

移住モニターツアー、  
おためしハウスで臼杵時間を体感!

「うすき暮らし」をゆっくりと味わっていただけるように、移住モニターツアーや、おためしハウスで皆さんのお越しをお待ちしています。また、引越費用・不動産仲介手数料の補助から若年・子育て世帯への家賃補助まで、移住・定住支援策を充実させています。登録急増中の空き家バンク物件もご案内しますので、レンタカー費用の補助等も活用しながら、ぜひお越しください。

臼杵市役所 地域力創生課  
〒875-8501 臼杵市大字臼杵 72 番 1  
TEL 0972-63-1111  
E-mail kyoudou@city.usuki.lg.jp



うすき暮らしナビ

Advice & My Favorite

# 津久見市に住む。



## 自分の将来の 目標のため津久見市へ

大学の心理学を専攻していた梅原辰哉さん。卒業後、津久見市の地域おこし協力隊と



して着任。将来の目標であるメンタルケアと農業を合わせたケアファームを達成するために、まずは栽培の技術を身につけようと考え、「街の雰囲気自分が合ったように感じた」と津久見市へ移住を決めた。

### 津久見市

### 地域おこし協力隊 として新たな挑戦

農業の協力隊をしているが、農業に関心を持ったのは、実家がレストランを経営している、そこで様々な作物にふれることが多かった事だそう。関心があっても農業を仕事に



### 農業の大変さと喜び

夏場の農薬散布が大変。カッパを着て長靴、ゴム手袋での作業の暑さは、きつい。ですが、大変な思いをして自分が育てたみかんが綺麗になっていたり、食べたときに美味しいと、大変さを忘れられるくらいうれしいと農業への思いを熱く語る。

### 今後の目標

まずは、「自分が農家として生産できること」という梅原さん。

その後は、「収穫体験を取り入れたり、個人販売を進めていきたい」と自分の目標に向かって少しずつ取り組んでいる。

すると、すぐ決められず、大学ではカウンセラーへの憧れもあり、一度は心理学の道を選んだ。

四年間、心理学を学ぶ中でメンタルケアと農業を合わせたケアファームの存在を知り、そこで「農業の技術を早くから身につけよう」と思い、様々な情報を調べる中で地域おこし協力隊という農業研修+αができる事業を知ったことがきっかけだ。

移住をして、一人暮らしが初めてのことで生活自体に不安はあったが、自分が協力隊として「どれだけのことができ、挑戦できるのか」という気持ちの方が大きかったという。



## 暮らして実感 津久見市はこんなまち

梅原さんから

### 休日の過ごし方は？

絵を描くのが趣味なので、休みの日は家の中や、気分転換に外に出て絵を描いています！他にも、物を作ることが好きなので、いろいろと試したりもしています。



### 津久見市に住んで良かったこと？

自然が近く穏やかで、リラックスできます。気にかけてくれる人も多かったり、近所の方からおすそわけや食材ももらえることもあり、日々楽しく過ごしています。

Advice & My Favorite

## 移住補助金や空き家バンクなど 移住定住に関する制度の活用を！

津久見市へ移住される方に対し、住宅の新築や購入、改修費用には100万円、引越費用には20万円を上限として支給するほか、移住者奨励金10万円などを支給します。また、「津久見市空き家バンク制度」も行っております。物件詳細等、津久見に住むために必要な情報は津久見市移住定住ポータルサイト「つくみ de Life」でまとめて発信していますので、ぜひご覧ください！

津久見市役所 商工観光・定住推進課  
〒879-2435 津久見市宮本町20番15号  
TEL 0972-82-2655  
E-mail tsu-kankou@city.tsukumi.lg.jp



つくみ de Life

# 竹田市に住む。



活気づいた

「ふるさと」竹田に戻ってみたい

竹田市で地域おこし協力隊として活動する黒阪旅人さんは2021年9月にUターンした。黒阪さんは、小学校から高校までの12年間竹田市で過ごし、関東の大学に進学後、東京の企業に就職した。



の頃から付き合い合っていた方と結婚することになり、今後、住む場所や子育て環境を考えた際に「ふるさと」である竹田に戻ることを決意した。

## たくさんさんの魅力が詰まった竹田での活動

「ふるさと」である竹田のために、これまでの経験を活かした活動をしたいと考えたところ地域おこし協力隊制度を知り応募した。

活動内容は、学校やイベントでのものづくりワークショップの開催、デジタル工作機械を使用して看板製作、竹を利用した商品開発、学校の授業等で自分のUターン経験の発信を行っている。また、最近では2017年に祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録された祖母山麓エリアで溪流魚「アマゴ」をテーマにした自然ガイドもを行っている。

活動をjする城下町は、まちを歩けば知り合いがいるコンパクトな環境が心地良い。意外と同世代の仲間たちも竹田に住んでいた。若いうちに地元に戻り、色々な仲間とともに活動できていることが良かった。

## 自分の経験を竹田のために活かしたい

改めて戻ってきた「ふるさと」竹田をまだまだ活気づけたいと思っており、社会人としての経験、そして今活動している地域おこし協力隊の経験を、自然豊かな竹田の特徴を生かして「ものづくり」「自然」をキーワードに活動を展開していきたい。子どももこの12年間過ごし、そして大人になって戻って感じた竹田の魅力、今後は生まれてくる子どものためにも残していきたいと思っている。

最後に私が竹田で特に好きな場所は、城下町にある広瀬神社からの眺め。城下町を一望でき、ジオラマのようにコンパクトにまとまった景色を眺められる。ぜひ、城下町を散歩する際は立ち寄ってほしい場所である。

暮らして実感  
竹田市はこんなまち  
/市の担当者から/



## おすすめのイベントは？

毎年11月に行われる「竹楽」というイベントです。竹を切り、灯を灯しただけのシンプルな竹灯籠が城下町中に並ぶ風景に感動します。

## 子どもが楽しむ場所

日本名水百選に選ばれた竹田湧水群の中の一つ河宇田湧水の横にある河川プール。夏には多くの子どもたちが楽しむ場所で、無料開放しています。



©KOJIMA NAOTO



職業：地域おこし協力隊  
家族：妻  
出身地：大分県竹田市  
前住所：千葉県松戸市  
移住時期：2021年9月

黒阪 旅人さん (29)

## 移住サポートは充実しています。移住のことなら、竹田市にお任せください！

竹田市はこれまで、移住・定住政策を推進し、若者やアーティストなど300名以上の移住を実現しました。「空き家改修事業補助金」や「Uターン促進住宅取得・住宅改修事業補助金」、「移住応援給付金」などの助成制度があり、あらゆる移住に対応できるよう努めています。

竹田市役所 総合政策課  
〒878-8555 竹田市大字会々 1650 番地  
TEL 0974-63-4801  
E-mail seisaku@city.taketa.lg.jp



竹田市移住サイト

# 豊後大野市に

# 住む。



「雪のない地域での暮らし」を求めて九州への移住を決意

埼玉県から豊後大野市へ移住した高橋さん。北海道出身で、とある経験から九州への移住を考えるようになったそう。「その日は雪がかなり積もって、除雪をしないといけなかつたんですがインフルエン



## Takahashi's Profile

2022年に埼玉県から豊後大野市へ移住。会社員として働きながら、ITスキルを勉強中。

高橋 知恵子さん (45)

ザに罹ってしまったって動けなくて。そのときに、雪のない地域に移住したいと思っただけです。」趣味のツーリングで九州へは毎年のように訪れていて、九州に移住をしたいと思うようになったとのこと。その後、縁あつて埼玉県に移住をされたが、九州への移住の思いはずつとあつたそう。そんなときに、たまたまSNSで大分県のITスキルアップ事業（ITスキルを無料で身につければ、移住から就職まで一貫したサポートが受けられる事業）を見つけ、応募された。この事業を利用して、豊後大野市で就職が決まったことをきっかけに豊後大野市での生活がスタートした。

## コロナ禍の住まい探し

当時、埼玉県に居住しており、さらに時代はコロナ禍の真只中。中々現地に行く機会もなく、住まいはインターネットの不動産サイトを利用して探されたそう。少しでもいいなと思う物件があつたらオンライン内見に申込み、様々な物件を見て、最終的に豊後大野市の賃貸の戸建てに決めた。しかし、いざ実際に移住され住み始めるといろいろな苦労があつたそう。「移住希望者のみなさんへのアドバイスとして、オンライン内見は非常に便利ですが実際に現地を見た方がいいと思います。オンライン内見では、壁に隙間があるとか、家の細部を見ることはできません。また、周囲の雰囲気や日当たりなど現地でしか感じられないこともあるので極力現地を見て決めることをおすすめします。」壁の隙間から虫が入ってくるので、ご自身でコーキングされたとのこと。

## 圧巻の自然

豊後大野市に移住して、趣味のツーリングを会社の同好会のみなさんと楽しまれている高橋さん。「北海道にも自

然はありませんが、豊後大野市の景色とは全然違いますね。柱状節理と呼ばれる岩体に入った柱状の割れ目の景観が圧巻です。豊後大野市はジオパークやユネスコエコパークに認定されており、独特の自然の魅力がありますが、現地に来ないとこの魅力は伝わらないと思います。紅葉も川の水もきれいで、滝を間近で見れたり。一年中花が咲いていて、四季折々の魅力をツーリングで楽しんでいます。」

## 型にはまらない人生を

日本で初めて「サウナのまち」を宣言するなど、アウトドアサウナが盛んな豊後大野市。豊後大野市で今後やりたいことをお聞きしたところ「ロジジきよかわのアウトドアサウナにまだ行ったことがないので行ってみたいです。水風呂がわりの川にダイブしたいです。」と話す。また、今後の展望について、「半自給自足生活しながら、パソコン一つで生活をしていくのが夢。豊後大野市に拠点を置きながらも、季節によっていろいろな場所に行つて、型にはまらない前例のない人生を歩んでみたいですね。」と笑顔で語ってくれた。

## 空き家バンクや移住補助金を活用ください！

豊後大野市へ移住をお考えの方に対し、住宅の購入、空き家バンク制度を通じた空き家改修費用は上限100万円を支給する制度があります。また、空き家バンク制度は随時相談・受付を行っています。まずは移住や住まいに関する情報を総合的に詳しく掲載している豊後大野市移住定住ポータルサイト「ぶんごおおの暮らし手帖」を検索ください。

豊後大野市役所 まちづくり推進課  
〒879-7198 豊後大野市三重町市場 1200 番地  
TEL 0974-22-1001 (内線 2414・2446)  
E-mail bo060020@city.bungoono.lg.jp



ぶんごおおの暮らし手帖

## 暮らして実感 豊後大野市はこんなまち

市の担当者から

### 子育て環境は？



豊後大野市には子育て世代の親子が交流・相談する「子育て支援センター」が市内6カ所にあります。移住したママ達のより所として利用されています。

### オススメの場所は？

豊後大野市には温泉施設はありませんが、市内5カ所にある「アウトドアサウナ」が楽しめます！キャンプ施設等に隣接され、自然の中でしっかりサウナで暖まり、そのまま、川にダイブできる、イチオシの場所です。



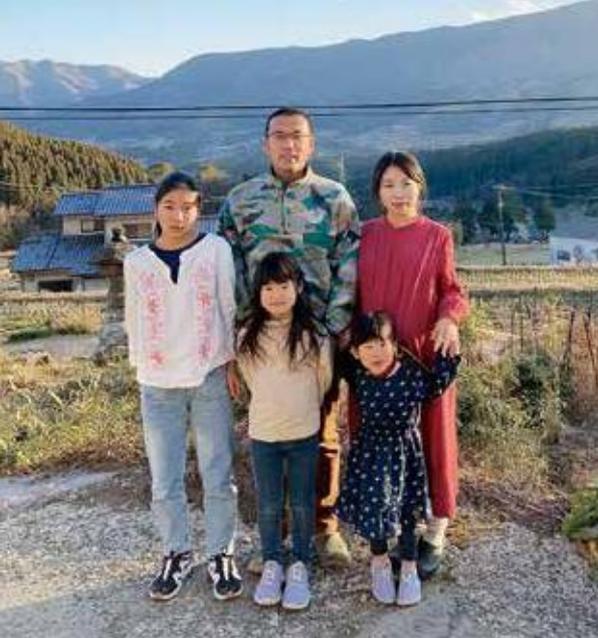
Advice & My Favorite

# 由布市に住む。



## 一目ぼれの場所に家族で移住

山々や温泉が点在する自然豊かな由布市へ2016年に移住された山内健生さん、彩乃さん、3人の娘さん。健生さんはリモートワークでITシステム開発業務を中心に、彩乃さんは農産物の加工・販売や海外で仕入れた雑貨の販売などを中心に仕事してい



山内 健生さん (45)  
・彩乃さん (40)

2016年ご家族で農業が盛んな由布市の庄内町へ移住。棚田が広がる地区で、IT事業と自然の素材を活かした手仕事をしています。

る。暖かい季節は、畑作業や日曜大工をしたり、寒い季節は温泉に入ったりと、里山暮らしを満喫している。  
「旅が好きで、東南アジアなどを旅して素朴な暮らしにふれました。そのような暮らしを参考に田舎暮らしをした」と考えていました。「東京近郊や四国、九州など車で様々な土地を訪れ移住先を探しました。移住者フェアに参加した際、由布市の方と出会い、意気投合。由布市を案内してもらい、高台から美しい棚田が見渡せる地区に一目ぼれしました。下見のときから地域の人が親身に行ってくれたこともきっかけとなり、由布市への移住を決めました。」と話す。

は十数年空き家状態だった為、初めて見たとツツタが絡まったお化け屋敷のようでした。」と話す山内さんご夫婦。地域の方にも協力してもらい、家の周りを覆っていた荒れた竹林を撤去したり、大量のごみを処分したり、家屋の補修や水道の引き込みをしたりと、生活基礎の整理を経験することで、田舎暮らしに必要な知識とスキルを少しずつ学んだとのこと。その後、荒れ果てた建屋は全て撤去し、事務所を新設して、4年を経てようやく、お子さんも含め家族みんなで安心できる住環境になり、地域の暮らしを満喫している。

## 地域をたっぷり味わう暮らし

健生さんは勤めていたIT系の会社で経験を積み、独立できる手ごたえを得て移住した。今後の目標として「IT事業の安定化と雇用の創出、将来的にはIT技術で農業のお手伝いが出来れば。」と語る。彩乃さんは、「毎日湧水を使って暮らせることが幸せ。」と話す。移住先には水のきれいな場所を探していたとのこと。畑の野菜を使った季節の手仕事や山にある素材と湧水を活かした草木染めなどを楽しまれている。

移住後、お子さんの変化もあったという。移住前は近所の同世代の友達と遊ぶことが多

かったが、移住してきて歩いて友達の家に行けなくなった分、ご家族や姉妹の距離が近づいたよう。「自分たちで遊びを見つけて、年齢関係なく近所さんの家に行って遊ぶようになってきました。親も気づかないようなことをご近所さんが褒めてくださり、かわいがつてもらっています。地域の人あつてこそ、暮らしていくことができますね。」と彩乃さんは話す。移住して5年目、健生さんは消防団に入団されたり、子供たちは藁の槌を打ちながらお菓子をもらい五穀豊穡を願う「いのこまつり」などこの地区特有の活動にも参加したりしながら、地元の方とのつながりや自然の豊かさを暮らしに取り入れることを大切にされている。「近所のおじちゃん、おばあちゃんの話が面白いんです。昔話や山や川についてなどは、とても興味深く、参考になることが多いです。」と地元の方との交流の面白さも話してくれました。



## 空き家の紹介・案内、改修費用の補助もご利用できます！

由布市では、市内の空き家の登録、紹介を行い、居住者を探す「空き家バンク制度」を実施しています。また空き家バンク制度を活用してご契約いただいた場合には、リフォーム工事費用の補助金もご利用いただけます。移住者への補助制度もありますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

由布市役所 総合政策課  
〒879-5498 大分県由布市庄内町柿原 302 番地  
TEL 097-582-1111 (内線 1244) E-mail seisaku@city.yufu.lg.jp  
農泊施設のご案内 <http://yufuguri.jp/>

## 暮らして実感 由布市はこんなまち

/山内さんから/

### 移住を希望される方へ (アドバイス)

最初に思い描く移住時のイメージとは異なることも、柔軟に受け入れると楽しいです。

### 由布市のお気に入りの場所は？

夏場は男池、冬場は温泉(湯病院、湯平、庄内)。由布市近郊も観光スポット満載です。



Advice & My Favorite

# 日出町に

# 住む。

interview  
08

Akanuma's  
Family

赤沼 翼さん (40)

2022年に東京から日出町に移住した赤沼さん。  
テレワークでお仕事をしながら、  
日出町での暮らしを満喫されています。

## 北海道と正反対の 気候を求めて

外資系IT企業で人事を担当している赤沼さん。会社は



東京だが、日出町に住み、リモートワークで働いている。働き方改革により、居住地が限定されない、よりフレキシブルな働き方が取り入れられたことが移住を考えたきっかけ。

北海道夕張市出身の赤沼さんが、雪のない東京に慣れてしまうと、再び北海道で雪のある生活に戻れないと思っってしまったという。そこで、思い切って正反対の土地をと九州に移住先に選んだ。「地元の夕張は山の中だったので、すぐ近くに別府湾がある環境が新鮮だった」と話す赤沼さん。年齢を重ねて、温泉にも魅力を感じてきていたこともあり、別府に移住先として家探しを始めたが、住環境や間取りなどが希望に沿う物件がなかなか見つからなかった。そんな中で目付いたのが隣の日出町だったという。

## 地場の野菜と温泉 そして別府湾

お母様と2人暮らしの赤沼さんは昔から料理が趣味で、2人分の夕食も赤沼さんが作っている。日出町では、どのスーパーでも採れたて新鮮な野菜を買うことが出来るほか、北海道や東京では見ることがない魚も多くあり、料理をするのがとても楽しいとのこと。「特に鯛がぷりぷりで美味しい」と話してくれた。また、東京にいたころは意識していなかったカボスもよく使うようになったそうで、みそ汁やハイボールに入れるほか、様々な料理に隠し味として使っている。また、自炊だけでなく、町内の飲食店にもよく行くらしい。まだ訪れたことが無い店もあり、行くのを楽しみにしているというのだ。

料理以外に、ランニングや温泉も趣味とのこと。東京にいた頃から続いているランニングは、別府湾沿いの城下遊歩道を中心に、その日の気分をコースを決めている。自分を鍛えなおしたいときは勾配の厳しいコースを選ぶらしい。温泉については、大分に来てすぐに別府八湯温泉道のスパ

ポートを入手し、温泉道名人をめざしている。町内のお気に入りにはホテルソラージュ大分・日出で、月に2回ほど通っているそうだ。

## 自然は豊かだけど 利便性はよい

## 「ちょうど良いサイズの の田舎」

日出町の感想を「自然が豊かで食も豊か。人も優しい」と語る。特にそれを実感するのは、町内の児童生徒があいさつをしてくれること。当たり前のことが当たり前前にできる、人間らしい生活ができていると感じているという。「東京にいる頃は常に気を引き締めて緊張していた」と語る赤沼さん。東京は何でもある・なんでも手に入る環境だったが、若干の不便さがある今の方が、日常のありがたさを実感している。都会ではなく田舎過ぎない、そんな「ちょうど良い田舎暮らし」のできる日出町が、赤沼さんに上手くマッチしているようだ。

## 暮らして実感 日出町はこんなまち

町の担当者から

### 移住を希望される方へ

日出町は、人口約 28,000 人、面積 73.26 km<sup>2</sup>のコンパクトシティです。大分県中部、温泉で有名な別府市の隣に位置し、南向きで日当たりのよい温暖な気候の街です。サンリオキャラクターのテーマパーク「ハーモニーランド」や名産の「城下かれい」が有名なほか、水がきれいで、複数の湧水スポットが存在します。



日出は水資源が豊富な町で、上水道の多くが良質な湧き水で賄われているほど

Advice & My Favorite

## 宿泊費補助制度を活用して、ひじ暮らしを体感！

移住定住を目的とする活動を行うために町内の宿泊施設を利用する方を対象とした「ひじ暮らし体験宿泊費補助金」を利用し、日出町を体感してみてください。また、空き家バンク制度、県外からの移住者への補助制度などの支援もありますので、ぜひ日出町にお越しください。

日出町役場 まちづくり推進課  
〒879-1592 速見郡日出町2974番地1  
TEL 0977-73-3158  
E-mail hijigurashi@town.hiji.lg.jp



移住定住情報